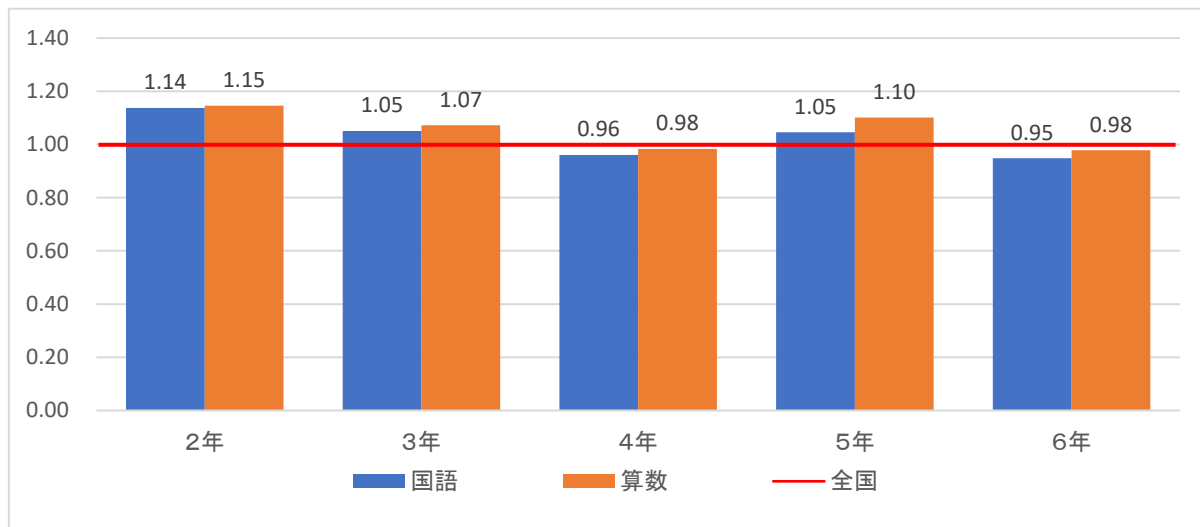


令和6年度 全国学力・学習状況調査及び寝屋川市学習到達度調査について 望が丘中学校区 望が丘小学校

○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



※小学2～5年生は寝屋川市学習到達度調査、小学6年生は全国学力・学習状況調査の結果

○調査結果についての分析、今後の改善方策

寝屋川市学習到達度調査	国語	領域別正答率では、どの学年においても「書くこと」領域について正答率が高い結果であった。今後も、漢字などの基礎的な学力定着を図り、思考力の育成につなげていく。
	算数	領域別では、「測定」領域において高い正答率であった。また、基礎的な計算問題において低学年で高い正答率であった。中学年までの基礎内容を定着させることで高学年での数学的思考を伴う学習につなげていく。
全国学力・学習状況調査	国語	「思考・判断・表現」の記述問題が全国平均を上回った。ディベート教育を中心とする思考や判断を問う学習の成果と考えられる。今後は、課題となっている漢字や文法などの基礎内容の定着に取り組んでいく。
	算数	「数と計算」領域が全国平均を上回っており、基礎的な計算力の定着が見られた。「データの活用」領域においても一定の成果が見られた。今後は、課題となる「数量関係」領域についての学習課題を充実させ、学力定着を図っていく。
	質問紙	質問紙「授業で自分の考えを発表する際の工夫」に関する肯定的回答率が全国平均を上回った。「考える力」を育成する授業づくりによるものと判断する。

○学力向上の取組

【中学校区】

以下の取組を通して、9年間の段差のない、絶え間ない学力向上をめざす。

- ・全国学力テスト・到達度テスト等の結果を分析し、共通の課題を見つけ、小中合同で研究授業や授業公開を行い、指導改善につなげる。
- ・ディベートを含め、各教科9年間を見通したカリキュラムの作成・点検・改善を行う。
- ・家庭学習の定着に向けて「自主学習ノート」の取組を改善する。
- ・各種加配教員による校種間連携を充実させ、各教科の指導方法の工夫改善を図る。

【学校】

国語科における「書くこと」領域に重点を置いた授業づくりや、ディベート教育を進めることで、学習の土台となる「考える力」のさらなる育成に努める。算数科については、タブレットPCを活用した学習により基礎基本の定着を図るとともに、図形やグラフの読み取りなど視覚的に捉えやすい授業を実施する。主体的な学習習慣育成のために「自主学習ノート」や「放課後学習教室」の取組をすすめる。また、学習状況把握のために学習中間到達度調査や終末到達度調査を実施し、一層の授業改善につなげる。